

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課長 森上 浩平 電話番号 0852-22-5123

事務事業の名称	産地間競争を勝ち抜く島根米の販売力強化対策事業
目的	(1) 対象 農業協同組合、担い手組織等 (2) 意図 ・「米政策の見直し」による平成30年の需要に応じた米生産への移行を鑑み、「売れる米づくり」の一層の推進が必要 ・島根米が産地間競争に勝ち残れるよう、販売対策を強化し、生産体制づくりから契約的取引拡大へと有利販売に繋げることで、農家所得の確保を目指す
事業概要	J Aおよび担い手組織等とともに産地間競争に打ち勝つ体制を早急に構築する必要があるため、以下の取り組みを実施。 【J A】 契約的取引の拡大に向け「プレミアム商品の買取販売」、「中食を中心とした業務用展開」を推進。 【担い手組織等】 担い手組織等が生産する「こだわり米」の契約的取引拡大のための「商品開発研修、マッチング商談会」「担い手組織等の販売活動支援」を実施。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	主食用米の契約的取引率	目標値	55.0	60.0	65.0	65.0	%
	式・定義	主食用米の播種前・収穫前・複数年契約比率	取組目標値					
			実績値	56.0				
2	指標名		目標値					%
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
		達成率	101.9	-	-	-	-	%
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	-	16,160
うち一般財源(千円)	-	16,160

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- 平成27年産については、全国的に主食用米の需給改善が図られ、概算金や販売価格はやや改善されたものの、依然として米の販売環境は厳しい。
- 契約的取引率は26年度の3.2%から27年度には5.6%に上昇したものの、産地間競争を打ち勝つには十分とは言えない。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- J Aしまね及び担い手組織等では、契約的取引の拡大に向けた取組みを計画・実践するなどの動きが見られる。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- 契約的取引率をさらに上積みさせる

②困っている状況が発生している「原因」

- 島根米を牽引するトップ商品が少ない
- ロット販売の可能な高価格帯の業務用への販路が未開拓
- 情報発信が不十分なため、島根米の認知度が低い
- 担い手組織等が生産する“こだわり米”についてレベルアップが必要

③原因を解消するための「課題」

- 具体的な販売戦略づくりと実践
- 担い手組織等を対象とした米販売に係るスキルアップ

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- J A、担い手組織等に対し販売に特化した取り組みを本事業にて展開し体制強化を図っていく。

9. 追加評価(任意記載)

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。